

**WEEKLY SIGNAL**

平成29年12月29日(金) 1406号

**来週の市場とレート予想**

	2018/1/4(木)	2018/1/5(金)	2018/1/9(火)	2018/1/10(水)	2018/1/11(木)	2018/1/12(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%					
銀行券	+ 5,900	+ 4,000	+ 5,000	+ 4,000	+ 3,000	+ 2,000
財政他	△ 1,500	△ 2,000	△ 20,000	△ 3,000	+ 2,000	△ 35,000
資金需給	余 4,400	余 2,000	不 15,000	余 1,000	余 5,000	不 33,000
主要要因			法人税・消費税・保険 揚げ	国庫短期証券発行・償 還(3M)		源泉税揚げ 国庫短期証券発行・償還 (6M) 国債発行(10年)
オペ期日	共通担保 補完供給 CP等買入	△ 4,100 + 3,900 △ 100		共通担保 △ 5,200		
オペスタート	共通担保 国債買入	+ 3,000 + 7,100				
(日本)	東証大発会	マネ列ベース(12月) 日銀営業毎旬報告 (12月31日現在)	日銀当座預金 増減要因見込み(1月) 毎月勤労統計(11月)		景気動向指数(11月) 消費活動指数(11月)	国際収支(11月) 対外・対内証券売買 契約(12月) 日銀営業毎旬報告 (1月10日現在) 日銀保有国債銘柄別 残高(10日現在) 日銀の国庫短期証券 銘柄別買入額(10日現在)
(海外)	米12月のADP 全米雇用報告	米12月の雇用統計 米11月の貿易収支 米12月のISM 非製造業景況指数			米12月の財政収支	米12月のCPI 米12月の小売売上高

**【インターバンク市場】**

無担保タム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

**<インターバンク>**

日銀当座預金残高は、週初25日に国庫短期証券の発行等要因を受けて前週末対比8,700億円減少の369兆5,400億円から始まった。その後は369兆円台近傍で推移し、年末29日には368兆円6,100億円となった。無担保コールON物加重平均金利は、25日に△0.043%から始まり、その後上昇基調を辿り、28日には△0.036%となった。6日積みとなる年末29日には、年末越えの調達を控える動きからビッドが減少し、同金利は△0.062%となった。タム物は新年スタートの1~2W物を中心に、主に△0.045~△0.03%で取引が見られた。日銀は28日、「当面の長期国債等の買入れの運営について」を公表したが、1月のゾーン別の1回あたりのオファー金額や国庫短期証券買入れの当面の残高のめどについて変更は見られなかった。

**【オープン市場】**

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

**<TDB>**

今週の国庫短期証券は週を通し閑散。年末で市場参加者が少なかった事に加えて、入札・買入オペが実施されなかったこともあり、セカンダリー市場での出合いは見られなかった。来週は1月5日に3ヶ月もの入札が予定されている。

**<CP>**

今週の入札発行総額は約2兆500億円で、週間償還額の約3兆4,100億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。年末日の大量償還(約2兆5,500億円)に対しては、四半期末要因から新規発行は8,000億円弱に止まった。年内最終週となり、鉄鋼・商社・機械・その他金融等、各業態から大型の調達案件が実施され、活況なマーケットであった。発行市場の年末残高は、前月を上回り16兆円台後半となる見通し。発行レートについては、引き続き投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合いであった。26日、CP等買入オペが事前予定より500億円増額され、5,500億円で購入されたが、ディーラーの売却ニーズは1兆2,000億円強と旺盛であり、按分レートは△0.005%と前週比0.001%上昇する結果となった。来週の償還額は、償還案件が少なく2,000億円程度となっている。四半期末で残高を調整した企業の復活発行が見込まれる為、月初から活況なマーケットが予想される。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合いであろう。現先レートは、△0.100%~0%程度の出合いで、横這い圏内での推移を予想。

**<レポ>**

足許GCは先週末同レベルの△0.09%近辺から始まった。月末取引となる29日受渡しは、レートが大幅低下する展開とはならず△0.10%近辺で多く取引された。1月4日受渡し以降はレート上昇。週末にかけて△0.07%~△0.08%の出合いが続いた。SC取引では10年348回債と5年133回債のbidが多かった。10年348回債は概ね△0.50%近辺の取引。5年133回債は週初△0.30%台半ば~後半の出合いであったが、週後半には△0.10%台半ば~後半までレートが上昇した。他2年381・382・383回債、5年131・132・133・134回債、10年336・338・340・341・342・346・347・348・349回債、20年161・162・163回債、30年55・56・57回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。